

2019 年度
運輸安全マネジメントの取組み

名鉄バス株式会社

【社長指針】

「私達の最大の使命は、安全の確保とCSの向上！」

【最重点項目】

- ・ 基本動作の再徹底。「決められたことを何がなんでも守る」。
- ・ 事故、故障等の異常が発生したら、「異常時には動きを止める」を必ず実施し、速やかに報告すること。
- ・ 班教育集会等における双方向コミュニケーションのより一層の活発化と、組織の枠を超えた情報の共有化を図る。

名鉄バス運輸安全マネジメントに関する取組みについて

名鉄バスは、社長以下全社員が一丸となって、輸送の安全を確保するために、以下のとおり取り組みます。

1 輸送の安全に関する基本的な方針

- (1) 安全輸送が名鉄バスの根幹であり、最優先します。
- (2) 経営トップが率先して安全の声を聞き、安全輸送最優先の意識を徹底します。
- (3) 安全輸送のための PDCA サイクルを回し、安全輸送最優先の意識を徹底します。

2 輸送の安全に関する目標および当該目標の達成状況

(1) 2018 年度に設定した目標および達成状況

重点目標	評価
事故件数 10%削減	未達成

注：名古屋市交通局受託路線を含む

(2) 2019 年度に設定する目標

重点目標
事故件数抑止目標 10%削減

3 2018 年度自動車事故報告規則第 2 条に規定する事故の発生状況

類型別内訳	件数	備考
人身事故	1 件	
衝突事故	1 件	
車内事故	4 件	
健康起因	6 件	
人的被害のない車両故障	3 件	
合計	15 件	

4 輸送の安全に関する重点施策

(1) 全社員の安全意識の向上

- ・ 全社員が関係法令、安全管理規程を守り、安全輸送を最優先します。

(2) 安全への投資

- ・ 安全輸送への必要な支出や投資を積極的に行います。

(3) 内部監査と改善

- ・ 安全輸送への取り組みについて内部監査を行い、必要な改善を行います。

(4) 情報共有の体制づくり

- ・ 必要な情報を全社員が共有できる連絡体制を確立します。

(5) 教育・研修の計画を決めて実行します。

- ・ 教育及び研修を体系化し、計画的に実行します。

5 輸送の安全に関する計画

(1) 会議体

	名称	開催頻度	備考
①	安全対策委員会	随時	安全に関する方針の決議、 収集した他社事例の情報共有
②	全社安全推進委員会	年2回	上半期および年間の効果検証を行う
③	所長会議	毎月	社長訓示を配布
④	安全管理委員会	毎月	安全統括管理者訓示を配布
⑤	助役・班長会議	毎月	本社スタッフも参加
⑥	班教育集会	毎月	全乗務員が参加

(2) その他の取組み

- ① 運輸安全マネジメント周知カード
- ② 営業所事例発表会
- ③ 社長から家族への手紙送付
- ④ ベストCSメンバーカードの発行
- ⑤ 高齢者バスの乗り方教室
- ⑥ 社長、安全統括管理者による職場巡視
- ⑦ 早朝点呼立会
- ⑧ 異常時訓練の実施
- ⑨ ヒヤリ・ハット活動の活性化の継続
- ⑩ 新人同期ミーティング
- ⑪ 班教育集会の継続実施
- ⑫ 本社(安全統括課)の班教育集会への参加、内勤者との意見交換の継続
- ⑬ 保健師を軸とした健康管理体制の拡充

(3) 輸送の安全に関する内部監査の実施について

フォローアップ監査

	2018年度	2019年度
目的	運輸安全マネジメント内部監査の改善状況の確認	
実施日	2018年6～7月	2019年6～7月
対象者	安全統括課、全営業所(管理所)	
実施者	名鉄バス監査担当、(独)自動車事故対策機構	

内部監査

	2018年度	2019年度
目的	運輸安全マネジメント体制(輸送の安全に関する取組み)の確認 運輸安全マネジメントフォローアップ監査後の確認	
実施日	2018年11～12月	2019年11～12月
対象者	社長、安全統括管理者、安全統括課、全営業所(管理所)	
実施者	本社:(独)自動車事故対策機構 営業所:名鉄バス監査担当および(独)自動車事故対策機構	

6 輸送の安全に関する投資の実績および予算額

(単位:百万円)

項目	内容	2018 年度実績		2019 年度予算	
		金額	備考	金額	備考
従業員の研修・教育等	安全に関する教育費用	52	教育人件費	42	教育人件費
	健康管理に関する費用	21	定期健康診断、SAS・インフルエンザ対策等	26	定期健康診断、SAS・インフルエンザ対策等
	運転士の安全意識向上にかかる費用	14	各種表彰、事例発表会	14	各種表彰、事例発表会
内部監査	内部監査 フォローアップ監査	1	自動車事故対策 機構委託料	1	自動車事故対策 機構委託料
車両	車両購入費用	1,346	52 両購入	1,573	60 両購入
設備・機器	安全装備の推進	37	IT 関係、車載機 通信一元化、職 場環境改善、名 古屋営業所構内 改修	169	車載器通信一元 化、職場環境改 善
合計		1,471		1,825	

7 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統

安全管理規程参照(別紙)

8 事故、災害等に関する報告連絡体制

安全管理規程参照(別紙)

9 安全統括管理者

名鉄バス株式会社 瀧 修一(常務取締役)

10 安全管理規程

別紙

11 輸送の安全に関する教育及び研修の計画

(1) 2018 年度の実施状況

名称	開催回数	受講者数
新任運転士研修	12	120
3 年次研修	8	44
7 年次研修	10	99
新任主任運転士研修	5	64
新任教導主任運転士研修	2	25
新任助役研修	1	17
S 級ドライバー初任研修	2	29
S 級・シニアD研修(エイジ 63)	1	30
シニア D 安全運転研修(名自校)	20	60
CS 向上研修	4	30
クレフィール研修	2	26
安全運転研修	21	62
高速バス乗務教習	2	15
茨城中央研修所	1	4
運行管理者研修	5	73
指導担当者研修	1	16
運輸安全マネジメント研修	1	33
トップ講演会	1	63
合計	100	810

(2) 2019 年度の実施予定

名称	開催回数	受講者数
新任運転士研修	12	120
3 年次研修	18	72
7 年次研修	7	73
新任主任運転士研修	5	50
新任教導主任運転士研修	2	27
新任助役研修	1	14
教導主任運転士研修	12	72
S 級ドライバー初任研修	2	25
S 級・シニアドライバー研修(エイジ 63)	2	20
S 級・シニアドライバー安全運転研修	20	60
CS 向上研修	4	32
運行管理者研修	1	10
クレフィール研修	3	39

名称	開催回数	受講者数
安全運転研修	12	48
高速バス乗務員教習	2	18
茨城中央研修	1	4
運輸安全マネジメント研修	1	33
トップ講演会	1	63
合計	106	780

12 輸送の安全に関する内部監査結果及びそれを踏まえた措置内容

監査結果(今後の課題)	対応策	内容
「自分と家族を守るための重点取り組み」の遵守再徹底。	重点取り組みの見直しと何のために守るのかを確認し、習慣化させる。	重点取り組みに掲げた基本動作の徹底の継続と、課題を有す項目の対策を全社で水平展開しながら取り組んでいく。
「ヒヤリハット活動」の更なる活性化と継続。	ヒヤリハット活動への全員参加と情報の水平展開の継続。	引き続き、1人1件以上のヒヤリハット提出を目標とし、全員参加で取り組み、その分析結果を検証し、事故防止につなげる。その効果を全社で情報共有し、水平展開を図る。
コミュニケーションの重要性の認識と運行管理者のスキルアップ。	コミュニケーション構築の基本「相手の話を聴く」スキル向上と運行管理者の育成の継続。	営業所で積極的に取り組んでいる良好なコミュニケーション構築の継続実践と、個別面談でのコミュニケーション構築の基本である「相手の話を聴く」スキルの向上を図る。 引き続き、運行管理者のスキルアップを図るべく、指導、育成していく。

以上